祇園之洲砲台跡（市指定文化財）（鹿児島市清水町）

薩英戦争で最も被害のあった 薩摩藩の砲台・祇園之洲砲台

1863 年の薩英戦争のときには６門の大砲が配備されていました。イギリスの軍艦１艘が砲台前で座礁し、この軍艦の救援のためにイギリス艦隊は祇園之洲砲台に集中砲火を浴びせます。そのため祇園之洲砲台は、最も被害の大きな砲台に。現地には今も長さ約 115m、高さ約 1.2mの胸壁が残っています。胸壁は、敵の砲撃から兵士や大砲を守るための土塁で、凝灰岩でつくった石垣の外側を盛土で覆って構築されました。のちの発掘調査によって大砲を据えた砲座の痕跡を発見。薩英戦争後に破壊された胸壁を修復したことが明らかとなっています。

「どんどんかごしまの旅」による